

No.174

# 公民館だより

令和4年3月

宮津市字由良  
由良の里センター内  
由良地区公民館

## 公民館のこれから

由良地区公民館長 千坂 幸雄

公民館アンケートにご協力いただき、ありがとうございます。回収率は61%でした。

由良地区の皆様には各戸配布にて結果をお知らせいたしました。由良地区の皆様が今までの公民館活動をどのように感じておられたのかがよくわかりました。

私が思ったことですが、少子高齢化で今まで行ってきた行事が難しくなっている。四部対抗の運動会などで無理をしながら継続してきたようです。

運動会が終わった後の反省会では「楽しかった。」という感

想をよく聞きますが、不満を持つておられる方の思いを聞くことができなかったと反省します。

60歳以上の方は半数近くの方が運動会はやり方を変えてでも行ってもらいたいと思っております。その理由の一番は、多くの地区民が集まって交流できる唯一の行事であることをあげています。

しかしながら、これからの由良地区を担っていくかねばならない40代・50代の方の80%以上が中止を望んでいます。

又、60歳以上の半数以上の方から少子高齢化で選手集めが難しいことや高齢になって体が動

かなくなり、ケガを心配する意見を多くいただきました。

体育部会を持って議論した結果、地区運動会を中止して、老若男女が集って楽しめる行事を考えることとしました。例をあげますと「ラジオ体操」や「グラウンド・ゴルフ」を子どもと大人が一緒になって行うなどが考えられます。

新型コロナウイルスが治まりましたら餅つき大会など老若男女で実施するのもいいのではないかと思います。(親睦を深めるにはみんなで作って一緒に食すことが一番です)

地区の人と出会って何かを取り組み、話をしたりして交流したいと思っておられる方が多数おられます。普段の交流は困ったときの助け合いや防災にも力を発揮します。公民館といたしましては皆様の協力を得ながら地区民の生活に豊かさをもたらす活動をしていきたいと思えます。

### 【健康を考える】

現在は新型コロナウイルスが流行っていますので「三密を避ける」「うがい、手洗い」「マスクの着用」「ワクチン接種」で予防することが大切です。もう一つは、自己免疫（本来備わっている病原体に対する抵抗力）があり、これを強くすることが病気を防ぐ基本といえるでしょう。

健康を保つための三要素「栄養」「運動」「休養」の中の運動について考えてみます。

現代社会は、体を動かさなくてもいろいろなことが簡単にできるようになりました。このことが体力の低下につながっています。運動不足になってしまいます。ですから、運動をする習慣を作って運動不足にならないようにしないと病気になりやすくなります。さあ、運動をしましょう。

# 行事報告

主事 山下まさ代



## グラウンド・ゴルフ 大会(団体戦)

実施日 10月23日(土)

### 【参加チーム】

- ・由良オリーブを育てる会
- ・枝豆シスターズ
- ・さくらちゃん
- ・由良松寿会
- ・ミマの会とお友達
- ・ぎんなん
- ・公民館

今年も7チームで、和気あいあいと楽しくゲームができました。1チーム5名による団体戦で、8ホールを2回廻り、計16ホールの合計打数で順位を決めました。

結果は  
優勝「由良オリーブを育てる会」  
準優勝は同打数のためジャンケンで「ミマの会とお友達」  
3位「由良松寿会」



ホールインワンは前日の雨でグラウンドのコンディションが悪く、2本しかでませんでした。

## 健康広場

### ①もみじ公園ウォーキング

実施日 11月7日(土)  
参加者 9名  
総距離 5・7km  
歩数 7411歩

近くに住みながらなかなか行けません。もみじ公園の上段広場からの眺めは格別でした。紅葉には少し早かったのが残念でした。朝の寒さとうって変わって快晴になり、歩いているうちにうっすらと汗ばむ距離で、60歳から85歳の参加者全員が楽しむことが出来ました。

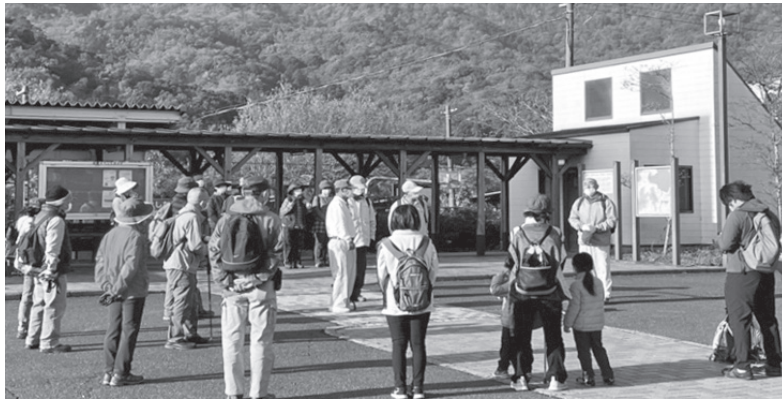


広場から見る由良川鉄橋

### ②七曲八峠ウォーキング

実施日 11月21日(日)  
参加者 27名(由良13名)  
総距離 9・1km  
歩数 11807歩

栗田地区公民館との共催事業。今年で2回目になります。丹後由良駅で合流し27名で出発しました。由良からは最年少4歳、



丹後由良駅で集合する参加者

最高齢者77歳の参加者がありません。 「二度行ってみたかった」「昨年実施されなかったので今年こそはと参加」「今日の日のために由良に帰ってきた」「山登りのトレーニングを兼ねて参加」等々、参加理由は様々ですが、各々の目的を達成されたようです。



道標付近で昼食タイム

「宮津ヨリ壱里三拾三町三拾間」という道標が倒れ、ずり落ちたままになっていましたが、それをみんなで力を合わせて起こすことが出来ました。



倒れないように括られた道標

2時間ほど行ったところに

## 卓球教室 1回目

実施日 1月29日(土)  
参加者 11名

昨年度実施できなかったが、今年度は無事第1回目の教室が開催できました。(8回連続開催予定)

準備体操をしてから、2台の卓球台に分かれ乱打の練習をし、公民館ルールの4点先取で試合を実施。約2時間でしたが、毎回参加されて腕を磨いておられる方も小学生以来の方も楽しく実施できました。



### 卓球教室 2回目

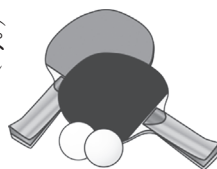
実施日 2月5日(土)  
参加者 6名

あいにくの大雪になり、参加者が少なくなりましたが、いい運動になりました。

あと6回予定

\*購入しました

- ・ラケット8本(ペンとシェイク各4本)
- ・ネット一式2組



### 消防訓練 2回目

2月1日(火)午前9時15分から行いました。前回と同様調理実習室から出火したという想定ですが、3人の役割を変更して実施しました。

非常時に役立つよう定期的に実施していくことが大切です。

### 由良ヶ岳へ

#### 登山証明書発行枚数 210枚

令和3年1月からの1年間で登山証明書の発行枚数は少なかったですが、多くの方が頂上を目指して登られたようです。登山口に置いてあるノートから登山者の声を一部紹介します。

3月31日(水)

頂上は雲が多かったけど良かったです。

~~~~~

5月23日(日)

大展望に酔いしれ、野鳥のさえずりにひたった一日。

~~~~~

6月20日(日)

9時36分 今から登ります。景色が良いとのこと楽しみです。

13時 今戻ってこれましたが、

あいにく山頂は霧で何も見えませんでした。残念！(日頃の行いが悪かったのかな...) また、リベンジします。

~~~~~

9月25日(土)

6月20日のリベンジです。今日は晴れました。日頃の行いを改めたせいかなと自負しております。

~~~~~

11月16日(火)

天の橋立がバッチリ！千葉県から登りに来たかがあります。

~~~~~

11月18日(木)

名古屋から来ました。誰にも会わず、由良ヶ岳ひとりじめ！



西峰からの天橋立、栗田半島

# 子ども達に明るい未来を

栗田中学校 校長 岡田 隆 幸

皆様には日頃より、本校の教育活動に對しまして、深いご理解と多大なるご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。

今年度、五十二名の全校生徒で進めてきた様々な活動も、いよいよよまための時期を迎えています。

一昨年度から続く新型コロナウイルスの影響により様々な取組が内容変更や中止を余儀なくされましたが、子ども達は前を向いて、様々なことに積極的に取り組んでいます。

改めて、子ども達の持つている力の素晴らしさに感心するとともに、ご家庭や地域の中での支えがあつてこそのことだと、教職員一同、感謝をしております。

とりわけ本格導入二年目を迎えた学校運営協議会（コミュニ

ティ・スクール）では、委員の皆様を中心に、活発な話し合いを行い、具体的な取組が動いています。

子ども達の図書室利用促進のための環境づくりや、子ども達への本の読み聞かせボランティアの募集、他にも運動面の指導やグラウンドの除草作業等も行っていきます。委員やボランティアの方々は「できる人が・できるときに・できることを」という言葉のもとに、集まって活動しています。

昨年は小学校への支援が中心でしたが、中学校への支援として、一・二月には子ども達に浴衣の着付けを学ばせたいと考え、時期や内容を検討しております。しかしながら、現在の感染拡大状況を踏まえて、実施時期を三月に延期をしているところ

です。

他にも昨年の十月と十二月には、活動等をお知らせする「栗田学院コミ♡スクだより」を発行しております。

P T A主催の資源回収でも感じるのですが、栗田中学校は地域の皆様に大切にされている学校だと思えます。

だからこそ、期待に応える意味も含めて、これからも「ふるさとみやぶ学」を進め、子ども達が地域の歴史や良さ、素晴らしさを学ぶ中で、生まれ育ったふるさとを大切にすることを育みたいと考えております。

話は変わりますが、学校や幼稚園等の就学前施設での新型コロナウイルスへの感染の広がりが報道され、学年閉鎖や休校・休園等が行われています。

それぞれの学校・園で感染対策を行っていますが、子ども達が集団で生活している以上、人と人との接触は必ずあります。

悪いのは人ではなく、ウイルスだと思えます。学校でも人権問題等に触れながら、そう伝え

ております。新型コロナウイルス感染症は、いつか時期が来れば収束すると思えます。

ただ収束した後に、子ども達の心に大きな傷が残るようなことは、絶対にあつてはならないことだと思っております。

子ども達の未来が明るいものになりますよう、これからも温かいまなざしで子ども達を支えていただきますよう、よろしくお願いたします。

最後になりましたが、皆様には、日頃より子ども達の心と身体の健康にご配慮をいただいておりますことに、感謝を申し上げます。今年度も大変お世話になりました。ありがとうございます。今後とも、よろしくお願いたします。



## 都市部と地域をつなぐ

# 『リゾートオフィス・丹後由良交流拠点』

株式会社カスタネット

代表取締役・社会貢献室長 植木力

脇の料理旅館松風の隣、実家の跡地に岡本工務店にお世話になりリゾートオフィスを建設しました。

ただの会社のオフィスではなく、地域の居場所や都市部との交流拠点になることを目指しています。室内はセミナーなどのイベントが出来るような間取りの工夫と什器備品、車いすトイレ等バリアフリー対応、ネットワークの環境、絵画の作品展が出来るように展示用レール設置（現在、由良出身の日本画家、千坂尚義氏の作品を展示中）など多用途に利用出来るようになっていきます。

宮津市では島崎に「前尾記念クロスワークセンターMIYAZU」を整備中でこの春にはオープン予定とのこと。この市の

施設とリゾートオフィスを連携することで都市部の人を市内・由良にワークションと呼び込むことを計画しています。

「ワークション」とは「ワーク」(労働)と「バケーション」(休暇)を組み合わせた造語で、観光地やリゾート地でテレワークを活用し働きながら休暇をとる過ごし方。働き方改革と新型コロナウイルス感染症により注目されています。

宮津市は京阪神から高速道路を利用すれば日帰りも可能であり、特に由良は海や山の自然、歴史、温泉などワークションとして利用出来るものが徒歩圏内にコンパクトに揃っています。これは丹後地方を含め、日本国内でも数少ない貴重な地域とされています。

由良は古来より北前船を通じ都の玄関口として賑わいをみせた地域であり、丹後方面への陸路、鉄道の入口でした。

今後、リゾートオフィスを中核とする企業と人材が集う交流拠点の機能を地域が担い、由良地区が昔のように、今風で言えば「丹後ゲートウェイ」になればと思っています。

建物完成後、京阪神から企業経営者、行政の視察として府議会議員などが由良に足を運んで頂いています。春以降は、全国からの訪問予定も入っています。今までに来られた人は由良を好きになられて、その後、家族で来られた人もおられます。しかし、星空の美しさは昔と変わりませんが、子どもの頃に浜に打ち上げられていた貝殻は姿を消し、プラスチックごみの多さに驚かれていますのは残念です。

今後、リゾートオフィスではセミナーなどのイベント開催、ワークション施設として都市部の人には、このごみ問題を認識して頂く予定です。又、由良

地区内を歩いて田舎の良さを感じて頂くことも企画しております。出来れば気軽にお声を掛けていただけたら幸いです。

リゾートオフィスは、宮津市と連携しながらワークション施設として有料貸出を行います。由良の皆様には、お試し期間(当分の間) 無料にてお気軽にご利用ください。尚、有料貸出を優先とさせて頂くため、空き状況などはお問合せください。

施設管理は、イターンで地域活性化に取り組んでおられる(株)京都宮津オリーブ(代表 安田裕美さん)に委託しております。



リゾートオフィス事務所  
Tel&Fax : 0772-45-1237  
090-7766-4910 (安田)

## 七曲八峠ウォーキング 参加者から

竹田 成美

11月21(日)二年振りに開催された栗田・由良地区合同ウォーキングに参加しました。明治23年、海岸沿いの奈良海岸道路が開通されるまで由良の脇から栗田の脇まで利用されていた難所の峠「七曲八峠」を歩いてきました。参加者27名、その中には4歳と6歳の姉弟がいて年齢幅が広がりました。

脇地区の入口案内板から少し歩くと山椒太夫の「首挽松」があり、ここで山椒太夫は、竹のノコギリで往来する人々に首を引かれたと言われています。とても感慨深いものがありました。昔の人家の跡らしき所に石が積んであり、当時の様子を思いめぐらしながら歩き進んでいくと、道は上り下りが多く、結構きつくて、まるでアスレチックに行っている気分でした。両公民館の役員の方々が、下

見に長時間を費やし整備されたことを聞き有り難く思いました。

また、与謝山の会の方々も進路不明の箇所には目印のテープを木々にくりつけたりとお世話になっていて、私たち参加者は、足元に注意しながら歩くことが出来ました。時々、休憩をはさみながら、皆さんと談笑し、始終なごやかな雰囲気でした。

昔、石狩場で使用したのでしょいか「火薬庫」跡を見ることができ、由良住民である私もこの峠について体験する機会がなく、知ることができて良かったです。お昼には、持参したおにぎり等でお腹を満たしている間に、男性参加者の皆さんが倒れた道標(石柱)を元の位置まで戻す作業をされていました。ご苦労様でした。

この日は、お天気も良くゆったりとした空間の中で自然に触れながら、初めて出会った方とお話ができて楽しかったです。

若い姉弟二人も最後まで頑張りをを見せてくれました。参加者全員が怪我なく無事に終えることができて良かったです。皆さん、お疲れ様でした。



森井 和美

七曲八峠ウォーキングに参加しました。

途中、休憩や昼食をとりながらとはいえ普段運動不足の身、山道を10km程度、時間にして4時間を超えると案内に書かれてあり心配しましたが、とても楽しめる一日となりました。

奈良海岸沿いの現在の道路が出来るまでは生活道路として使われていたと聞きましたが、山

の中とは思えない幅の広い舗装された道が続いており、両側には竹林や杉林が広がっていました。更に行くと、石段で整地された場所があり、かつては屋敷があったのか田畑があったのか想像は膨らむばかりです。

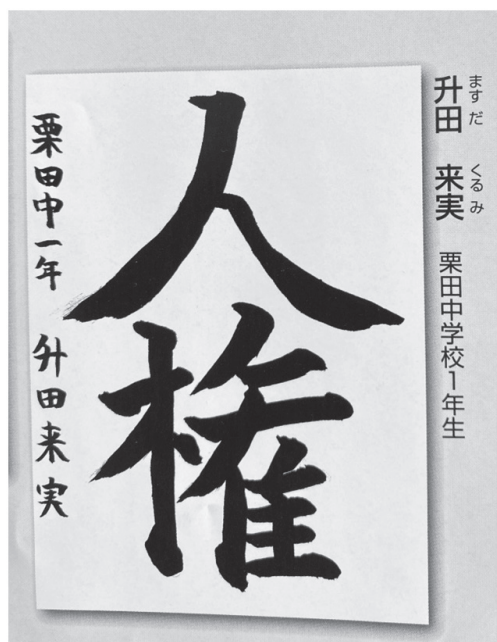
昼は見晴らしの良い所で休憩しましたが、男性陣は斜面に倒れていた石碑を立て、大きな木に括りつける作業をされていました。

途中、海を見ながらゆっくり歩けるところもあれば、何ヶ所か木々にロープが張ってあり、ロープ頼りになりながら一歩一歩前の人の足跡を踏みしめ歩くところもあります。後半になると、急に丹鉄の線路が山道から数メートル先に見えたり、洞窟も何ヶ所がありました。

火薬庫跡など山の中に入らないうと知らなかったところの説明を受けながらのウォーキングは過去に思いを馳せる良い一日となりました。

また機会があれば、是非参加したいと思えます。

令和3年度 宮津市人権啓発  
書道・ポスター・標語作品優秀作品



宮津市内6小学校 2中学校の児童生徒を対象にした人権啓発の取り組みで優秀賞作品の表彰がありました。

書道の部 (中学生) 5名  
 ポスターの部 (小学生) 5名  
 標語の部 (小学生) 6名  
 標語の部 (中学生) 3名

19名の児童生徒が表彰されました。由良地区においても、升田来実さん(栗田中1年生)の作品が選ばれました。おめでとうございます。

選ばれた書道とポスターの作品は今年のカレンダーとして活用されています。由良地区公民館にも掲示されていますのでご覧ください。

令和3年度宮津市立小学校・中学校人権標語優秀作品

あなたはあなた わたしはわたし  
 ちがいをみとめて みんなえがお 小学1年生

「だいじょうぶ」「ごめんね」「ありがとう」は  
 心のばんそうこ 小学2年生

思(重)いやり 遠くへ投げれば 金メダル 小学3年生



# 『由良って』

## こんなもの作れるんだ

山下 剛敏



新コーナーを作りました。

長く住んでいても、興味がな  
いと意外に知らないまま……何  
十年なんて事も割と多いもので  
す。その一つが由良の農業。一  
昔前までは、かなりの家庭でお  
米を作り、畑で野菜を作りなが  
ら働いていた時代がありました。

それが今では、色々な作物が  
割と簡単に手に入ります。普段  
スーパーなどで購入する食べ物  
はほとんどが、収穫されてから  
数日たったものが、出回ってい  
るのが現状です。採れたての作  
物やその素材で作った料理は、  
思ってる以上に美味しいことが  
多くあります。例えば……ですが、  
ご近所からの頂き物など格別に  
美味しい事も。それが由良の土  
地や風土です。

最近、耳にすることが増えて  
きているとは思いますが、由良  
でのオリーブ栽培。脇から上石  
浦まで、大きな畑もあれば、こ  
んな所にも！と、至る所に植わ  
っています。中には、お祖父さ  
んが植えてて知らなかった。と  
か。鉢植えでお持ちの方も増え  
ているようです。

今回は簡単にオリーブの鉢植  
えと地植えについてご紹介しま  
す。

### ①鉢植の場合



ホームセンターに行くと、オ

リーブ専用土、という便利なも  
のが出ています。大きくするつ  
もりが無ければ、毎年三月に替  
える！など決めて、土の入れ替  
えをしてやると良いでしょう。

次は水やりについてです。

・春秋 4〜7日に一度

・夏(最高気温27℃以上)

毎日〜3日に一度

・冬 10日に一度

このくらいを目安にして下さ  
い。

②水分の多すぎは根腐れの原  
因！

### ②畑または庭など地植えの場合



植える箇所を中心に、直径で  
約50cm程を30〜40cm位に掘って  
ほぐす。堆肥(牛ふんが望まし

い)を40ℓの三分の一と有機石  
灰をほぐした部分が隠れる程度  
に撒き混ぜて元に戻す。

その真ん中に支柱を40〜50cm  
くらい深く打ち込み、購入した  
オリーブ苗木を鉢から出し、支  
柱の根元で土を落として、しつ  
かり根つ子をほぐしてやり、支  
柱に添えてやります。

周りの土を被せて、しっかりと  
と足で踏み固めます。被せる土  
の量は、根が深く埋まらない程  
度に。水はたっぷりやります  
(5〜10ℓ) たっぷりやる事で  
土中の空間を無くします。その  
後、支柱に紐でくくって下さい。  
植え付けの時期は、4月前後が  
オススメです。

あとは年に一度は肥料を与え、  
枝が増えれば日当たり風通しの  
良い形に剪定してやって下さい。  
実を付けるには、二品種以上植  
えてやると確率が上がります。

◎次回は由良みかんについてで  
す。

協力…宮津オリーブ生産者の会

# 由良が光り輝いていた時代(17)

由良の歴史をさぐる会 加藤 正 一

## 「奉納船絵馬について」大発見

第一七三号（令和三年十一月発行）で触れたが、改めて新しい事実を加え考察した。

「寶求丸」船頭加藤長助の「大福万覚帳」によると、六月五日に酒田より蔵米を積んで六月一日小浜で米を処分して、大きな赤字（濡米処理？）を出しており、この間に難船した可能性が高い。

難船絵馬「寶求丸」の絵馬奉納は明治十七年九月である。

行方不明の難船絵馬「榮求丸」は絵馬が奉納されたのは明治十七年八月である。

難船絵馬「飛龍丸」奉納時期はやはり明治十七年八月である。三点とも同年同時期に絵馬が奉納されている。同時期、同様の

地域で嵐に会い難船したことが考えられる。

令和三年十一月に、舞鶴市郷土資料館小室智子学芸員に見せていただいた「日本の天災・地変」原書房には

「兵庫県

明治一七年六月暴風雨出水、福井県史 明治一七年六月一六〜一八日 暴風雨出水

船頭加藤長助の「大福万覚帳」による遭難したと思われる時期とピタリ符合する。というのは六月十九日に小浜にて赤字で米を処分している。波をかぶった濡米は一刻も早く処理して少しでも投資を回収する必要がある。他の二艘も兵庫県と福井県の間でこの嵐に遭遇した可能性が高い。

## 課題

### 「祈祷札の謎」

研究者の著書には丹後の廻船（北前船）は大阪木津川に船囲いし、春先船頭と知工が品物を買入れる間に他の乗組員は出港準備をし、いよいよ出港となると、まずは、現在の讃岐の金刀比羅宮により航海安全の祈祷札を貰い。瀬戸内海の港々に寄り品物を仕入れ下関を経て日本海へとというのが一般的である。その代表的な祈祷札が左図で、この二枚の祈祷札は同じ祈祷所の

祈祷札である。左は江戸時代の物で、右は明治時代の物である。よく見てもらうとわかるが、江戸時代の祈祷札は上部の所に梵字が書かれ、中央には祈祷文、右下に象頭山、左下に金光院と寺院名が書かれている。一方右は上部には我々が一般的に呼ぶ金刀比羅宮（金毘羅さん）である。この違いは明治になり神仏分離によるものと考えられる。また札の上部形状も異なる。



由良北前船資料館蔵

## 由良で確認できる祈祷札

| No | 祈祷年月日    | 西暦   | 祈祷文                   | 祈祷所 | 所有 |
|----|----------|------|-----------------------|-----|----|
| 1  | 弘化4年9月   | 1847 | 奉修不動明王護摩供二夜三日船中安全祈攸   | 金光院 | 脇  |
| 2  | 嘉永3年9月   | 1850 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 資  |
| 3  | 安政7年2月   | 1860 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 脇  |
| 4  | 万延2年2月   | 1861 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 脇  |
| 5  | 文久元年9月   | 1861 | 奉念力神明宮廣前護摩供養供海上安全無難祈攸 | 三光院 | 脇  |
| 6  | 文久2年8月   | 1862 | 奉修不動明王護摩供七村中安全祈       | 金光院 | 脇  |
| 7  | 文久2年8月   | 1862 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 資  |
| 8  | 文久4年2月   | 1864 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 脇  |
| 9  | 元治2年2月   | 1865 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 資  |
| 10 | 慶應元年     | 1865 | 奉修不動明王護摩供海上安全船中無難祈攸   | 海雲寺 | 脇  |
| 11 | 慶應2年2月   | 1866 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 脇  |
| 12 | 慶應3年2月   | 1867 | 奉修不動明王護摩供二夜三日海上安全祈    | 金光院 | 脇  |
| 13 | 明治4年正月   | 1871 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈攸  | 本宮  | 脇  |
| 14 | 明治4年正月   | 1871 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈攸  | 本宮  | 脇  |
| 15 | 明治5年3月   | 1872 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全祈攸    | 本宮  | 脇  |
| 16 | 明治11年11月 | 1878 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈   | 本宮  | 加  |
| 17 | 明治12年3月  | 1879 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈   | 本宮  | 加  |
| 18 | 明治12年10月 | 1879 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷家内安全守護祈   | 本宮  | 資  |
| 19 | 明治14年7月  | 1881 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷家内安全守護祈   | 本宮  | 資  |
| 20 | 明治14年10月 | 1881 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈   | 本宮  | 加  |
| 21 | 明治15年3月  | 1882 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷家内安全守護祈   | 本宮  | 資  |
| 22 | 明治17年3月  | 1884 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈   | 本宮  | 加  |
| 23 | 明治20年不明  | 1887 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷海上安全守護祈   | 本宮  | 加  |
| 24 | 明治21年9月  | 1888 | 金刀比羅宮奉二夜三日祈祷家内安全守護祈   | 本宮  | 資  |

脇：脇自治会

資：由良北前船資料館

加：加藤家

金光院：象頭山金光院

三光院：土崎山三光院

本宮：金刀比羅宮本宮社務所

海雲寺：象頭山海雲寺

江戸時代の祈祷文は、奉修不動明王護摩供二夜三日

船中安全祈攸

海上安全祈

船中無難祈攸

ほとんどが海上安全祈である。

明治時代の祈祷文は、

金刀比羅宮奉二夜三日祈祷

海上安全守護祈攸

海上安全守護祈

家内安全守護祈

No. 18・19・21・24の家内安全守護祈を除きほとんど海上安全守護祈である。江戸時代と明治時代の祈祷文が異なるのは解るが、同じ時代で文が異なるのは何故なのか？また家内安全守護祈は廻船とはまったく関係ない。仮に海上安全と同時に得たとすれば、同じ年月の海上安全の祈祷札があってもよいはず。それがない。何故なのか？明治時代についてはヒントになる例がある。後述する。

由良にある 月別 (2点不明) 金刀比羅宮・金光院 祈祷札

| 時代 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 江戸 |    | 6  |    |    |    |    |    | 2  | 3  |     |     |     |
| 明治 | 2  |    | 4  |    |    |    | 1  |    | 1  | 2   | 1   |     |

但馬諸寄湊「樽屋」8点 但馬の大船主宮下家の子孫 宮下仙之助氏提供

|    |  |  |   |   |   |   |  |  |  |  |  |  |
|----|--|--|---|---|---|---|--|--|--|--|--|--|
| 江戸 |  |  | 1 |   |   | 2 |  |  |  |  |  |  |
| 明治 |  |  | 1 | 1 | 2 | 1 |  |  |  |  |  |  |

北前船は一般的に大阪と東北・北海道を往復する。冬の日本海は荒れ狂うのが普通であり、航海は避けられてきた。小浜市史には弘化三年（一八四七）に古河屋は手船の船頭に對して航海にあたっての条目を出した。この条目の前書きにはこれまで春はゆるゆると乗り出し秋は早く乗り納めていたものが、近年相当の利潤があるため春は早くから秋は遅くまで廻船するようになり、それが難船の原因となっていることを延べ、第一に大阪出帆は春彼岸ころより準備が整い次第川に船を浮かべること、第二に北国より秋上がりの船は彼岸の中日までとすることなどが決められている。このようなことから考えられることは大阪を江戸時代は旧曆三月以降、明治は新曆四月以降に出航し北へ向かい、秋新曆九月前後には大阪に帰港する。前述したように大阪で船囲いした場合、大阪を出港すると金

毘羅さんに参り祈祷札を得るのが一般的なように考えてきたが、由良の祈祷札に新曆で、四月、五月に出港する船(祈祷札)がない。すなわち北前船の一般的な行動すると思われる船がない。江戸時代(旧曆)二月六点、明治時代(新曆)の三月四点は早く出港した北前船と考えられないことはないが、江戸時代、明治時代を含め七月以降に祈祷札を受け取るのは何とも理解に苦しむ。と云うのもこの頃は大阪へ帰港する時期に当たっている。出港時に受ける祈祷札を得ている。どのように考えればいいのか？

①大阪に帰港時来年の為貰った。しかしお札等は新しいことが重要だと思し、来年に再出港する時に祈祷札を得ればよいことだ。

②大胆に考えると、丹後由良の一部北前船は大阪に船囲いせず、大阪で荷物をおろした後再び由良で船囲いするため出

港し由良に帰港するのに安全祈願し祈祷札を得たのかもしれない。

諸寄湊について祈祷札は、時期的にほとんどの祈祷札が北前船として一般的に言われる手順にあつていと言えらる。

今後分析の必要があるが、江戸時代、明治の初期の航海は地乗りと云われる沿岸を見ながら航海する。それに対して沖乗りと云われる直接目的地に向かう航法。地乗り航法時代であれば、由良に祈祷札、絵馬があるものはほとんどの船が寄港している浜田の清水家の御客船帳に記載された船に合致していてもよさそうなものであるが、合致するものがない。それに絵馬と祈祷札も両方あるものもこの時代の物にはない。絵馬といひ祈祷札といひ不明なことがある。今後の研究課題である。

船絵馬やこれらの祈禱札について前号や前述文に対する一つの解になるものとして明治時代のものであるが、寶求丸関係の資料（加藤家資料 一部京都府立丹後郷土資料館蔵）の祈禱札は三月受領している。また絵馬は九月奉納されどちらも北前船の行動時期に合致していると言える。しかも絵馬は大阪流のものと同じ画風である。

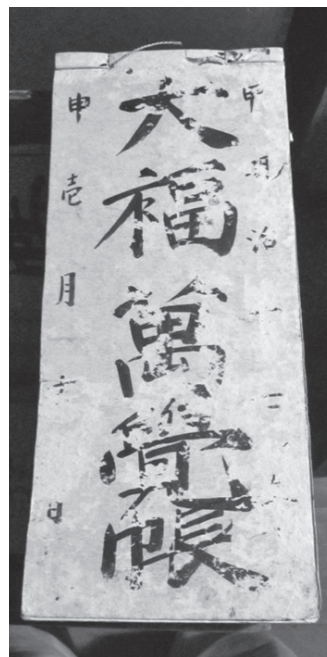
大福萬覚帳（加藤家文書）には一番下り（北方向）三月十日舞鶴・由良発から庄内加茂へ。一番登り庄内加茂から小浜へ。二番下り小浜から酒田へ。二番登り酒田から小浜・由良。三番

下り小浜から庄内加茂酒田。三番登り酒田から舞鶴へ。四番下り舞鶴敦賀から越後土崎。四番登り土崎から小浜へ。

一番から四番の航海をしているが、舞鶴・由良から酒田・庄内加茂間を往復して大阪には行っていない中距離廻船であるが祈禱札・絵馬を得ている。しかも最後は小浜で終わっており由良で船囲いしていそうな様子が見える。この時代には既に郵便制度もあり、江戸時代にも相当の通信制度もあり、大阪に行かなくても手に入れることができる。祈禱



金刀比羅宮「祈禱札」 明治一七年三月



「大福萬覚帳」 京都府立丹後郷土資料館蔵

札、絵馬があるからと云って北前船とは言えない。次回には北前船の例を述べたい。



「寶求丸」船名板 約各20×20 宮津教育委員会蔵

## テーマ “3月”

今回はテーマを決めて原稿募集をしたところ、  
素敵な原稿がとどきました。

### 春を待つ

昨年十二月には大雪となりましたが、久しぶりの大雪だったので、私自身、雪への対応がいつもよりもぶってたような気がしました。由良地区はありがたいことに、地域の方にも除雪機や除雪車で早朝から出動して頂いているお陰で、雪が溶けるのも早く感じました。本当にありがたいことです。職場の方からは「由良地区は、雪かきをしてしてくれてるから車が走りやすいし仕事がしやすいです。」と言って頂き、私が褒めてもらったような、嬉しい気持ちになりました。寒さも続く中、次の雪にも注意を忘れず、無事に春を迎えることが出来たらと思いながら、家から見る雪景色を眺め、ふるさとの冬を感じていました。

浜野路 中西

### 旅立ちの3月

3月は旅立ちの時。鉄橋の向こうに夢が広がっていた。

初めて会う人、街や文化、吹く風にさえ、すべての出会いに胸が躍った。

丹後由良駅、ここから始まった。

由良のトリトン



### ワクワクする3月

胸騒ぎの3月というのが、私のイメージです。

人々の移動月であり、環境が大きく変わり、人生の節目が訪れる、そんな3月。卒業と旅立ち、別れの寂しさの後に来る新たな世界との出会い、夢やあこがれでドキドキして心穏やかではなかった。例えるなら、子どもころの遠足前夜、明日の楽しみへの期待に満ちた、あの感覚が日々続くようなもの。

それにしても還暦をとうに過ぎた今でも、3月は何故かワクワクするんだな、これが(笑)

ノスタル爺

### 心癒す3月の花

私は咲き始める花がだんだんと多くなってくる3月が好きです。梅や桃、木蓮、芝桜、チューリップなど。庭のあんずも心の癒しです。

Mより

### 孫とお雛様

一昨年に初めて女子孫が生まれた。お雛様を贈ろうと母である嫁いだ娘に電話したところ、『場所を取るから本棚に置けるほど小さいのでいいよ』と素っ気ない返事。でも、毎年飾ってもらえるようにとお店であれやこれやと散々迷ってミニチュアの五段飾りのものを贈った。後日、娘から「かわいいのをありがとう」というメッセージとともに、孫がお雛様のプレゼントを喜ぶ笑顔の写メが届き、嬉しくなった。これから幼稚園、小学校入学、……と、3月は何かと物入りですね。

心穏

### 待ち遠しい春

今冬は雪がしっかりと降って、由良らしさを感じた。  
暖かい春が待ち遠しい。

M



### 「三月」

筋肉疲労と筋肉痛が  
激しい時

ペンネーム ちやお

### 春の味

雪が融けた1月下旬  
畑に出てみると 露の臺が顔を出していた  
さっそく 採って帰り露の臺味噌に  
少し苦味が これが春の味  
あったかいご飯と一緒に食べてもおいしい  
バゲットにぬりチーズをかけてトーストして食べるのが私のお気に入り  
次はどんな春に出会えるのか 楽しみ

m・y

### 我が家のお雛さま

私の小さいころ（約60年前?）、我が家にはお雛さまがなかった。その頃になると、お隣のお雛さまを見に行き、豪華で優しい顔をしているお雛さまの前にズット座っていたが、欲しいとか、うらやましいとかは思わなかった。時代がそういう時代でしたから。

我が家にお雛さまが来たのは、娘が産まれた時。数年は飾っていたが、だんだんと出さなくなった。5年前に孫が産まれた時、このお雛さまを引き継いだらと思ったのは親だけ。孫と3人で新しいお雛さまを見に行き、住宅事情にあったお雛さまを購入した。

退職してからは時間と心に余裕ができ、虫干しかねて毎年出してきたは、ゆっくり眺めている。五節供の一つである3月3日のひな祭りには健康に感謝し、すべての子どもたちがこれからも無事に育つようにと願い、毎年飾りたい。

60歳代 女性

### 三月 引っ越し

二月は逃げる、三月は去る、四月は？  
 忘れました。とにかく寒い中、バタバタと過ぎてゆく季節に思います。三月はそれぞれ娘たちの引っ越しでよく走り回ったと憶えています。

近場では神戸、大阪、京都に奈良、少し離れて徳島、もっと離れて静岡。車にタンスに布団、自転車まで詰め込んで娘とナヴィ系の妻を乗せ、冬枯れの山並みを見ながら引っ越し先に向け運転しました。当時は徳島へ渡る明石海峡大橋もなく、フェリーで淡路島に渡った事や、京都から奈良へ渋滞ばかりで前へ進めない二十四号線にイラついたものでした。どこへ行っても帰りは妻と二人、言葉少なに同じ道に戻ったように憶えています。入学であったり転勤であったり子育て真最中の思い出です。

この頃、読み貯めた本の整理を兼ねてミニ図書室に部屋の模様替えをはじめました。宜しければ本好きの方、暇な方、お寄りください。

岡田 武

### 健康一番！ 春一番！

花粉症じゃなくて良かったと思う

ネーム 釣り人

### はじまる

人が春に備えはじめ  
 蕾が膨らみはじめ  
 草が伸びはじめ  
 草刈りはじまる  
 春一番待ち遠しい三月

PN 春三番



### 地域賑わう展示

3月でまず思うのは、「ひな祭り」、1月31日の京都新聞に「ひな人形一足早い春の風情」として、大宮町の「小町の舎」で、住民から寄せられた約千体のひな人形が展示され、と掲載されていました。私の家にも娘のひな人形があります。去年は久しぶりに出しましたが、毎年出すことができていません。由良地区の皆様のところにもひな人形が眠っていませんか。私のところは平成のひな人形ですが、昭和のひな人形もあるお家がないのでしょうか。何らかの形で展示会ができれば地域のにぎわいにつながらないのでしょうか。由良地区公民館で展示できないのでしょうか。他にもっと良い展示場所があればそこで、来場された方には、もれなく「ひなあられ」をお渡しするとか。

千坂

たくさんの方々からの寄稿により174号を発行することができました。

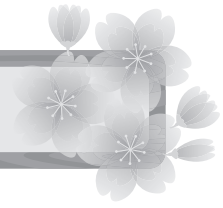
厚くお礼を申し上げます。

次回175号（令和4年7月発行予定）のテーマは

## 「由良の浜」

引き続き寄稿をよろしくお願いします。



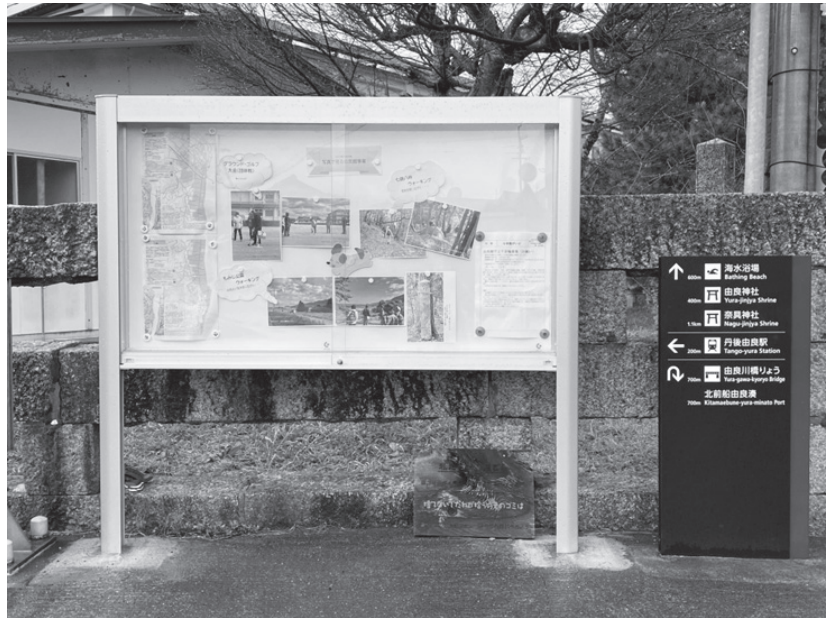


# 今年度 購入した備品

由良幼稚園横にあった老朽化した木製の掲示板がアルミ製のマグネット式掲示板にかわりました。

公民館や宮津市からのお知らせなどを掲示しています。近くをお通りの際は是非ご覧ください。

令和3年6月設置



- ① 写真アルバム  
「舞鶴・宮津・丹後の昭和」 樹林舎
- ② 「ふるさとNEXT」  
京都府北部地域で生きる 京都新聞社編

2冊購入しました。  
生まれ、育った丹後を振り返りませんか。  
公民館では是非閲覧してください。

壁掛け時計（電波時計）

1階 第1休憩室に設置してあった時計が故障のため買い換えました。

令和3年10月購入



# 短歌

耕本 清

小春日和日差し短し老梅の蕾は堅し春待ち暮

百寿超え寒さに耐えた夏みかん黄色鮮やか妻は一つ歳上

早春に白木蓮は天を向き寒さ耐えて咲く春を待ち

勲八等瑞宝章は額の中戦いくさの庭は赤道を超ゆ

タイ曾孫の因木名のヒ口満点多いとほほえんで秋には日本へとはにかむカメラ

朝日ぎ差し山から明ける由良の里つきぬ潮鳴りしおな聞きつつ眠る

## 編集後記

今年度は体育部、文化部とも充実した会議をもつことができました。

体育部会では、永年続けてきた運動会について意見を出し合い、今後に向けて検討をする機会として「公民館アンケート」に取り組むことになり、地域の方々の声を集約しました。大変お世話になりました。

文化部会では、57年続いている「公民館だより」について、もっと広く、もっと多くの地域の方々の「だより」にするために検討しました。今回は書きやすいようにとテーマを設定してみたところ、多くの方に寄稿していただき感謝しています。読んで話題にしたいだいたり、返事や自分の思いを投稿していただいたりして輪が広がればうれしく思います。

今後も役員さんと知恵を出し合い地域の活性化に繋がるような公民館事業を進めていきたいと考えます。ぜひ、皆さまご協力ください。

主事 山下